

2024.6.26 (第2版)



第39回 ソフトウェア技術者協会 総会

日時：2024年6月26日(水) 18:00~19:00

場所：オンライン (Zoom)

議題：

第一号議案 2023年度事業報告

第二号議案 2023年度決算報告

第三号議案 2024年度事業計画

第四号議案 2024年度予算審議

第五号議案 役員改選

第一号議案 2023 年度事業報告

例年通り、ソフトウェア・シンポジウム 2023 を開催した（開催場所は仙台国際センターで、ハイブリッド開催とした）。その他、フォーラムや各種分科会活動を積極的に行った。

ソフトウェア・シンポジウム 2023 の概要は次のとおり。

第 43 回 Software Symposium 2023

期日：2023 年 6 月 12 日（月曜日）～ 14 日（水曜日）

会場：ハイブリッド開催（オンライン&現地：仙台国際センター）

参加者：127 人

実行委員長：澤田 恵介（仙台高等専門学校）、福川 優（パイオニアシステムテクノロジー）

プログラム委員長：岡本 圭史（仙台高等専門学校）、根本 紀之（東京エレクトロン）

プログラム副委員長：小楠 聡美（HBA）

ワーキング・グループ：10

論文・Future Presentation・報告セッション：6

（研究論文 6 本，経験論文 6 本，事例報告 2 本，FP 4 本）

フォーラム・ワークショップの開催実績は次のとおり。

2023.08.25 SEA Forum in Aug. 2023

連続セミナー『ハザードとレジリエンスの分析の新潮流 STAMP と FRAM』

第 3 回 学びのための事故分析 CAST

2023.09.07 SEA Forum in Sept. 2023

第 4 回 自然言語処理連続セミナー

自然言語処理研究者が見た言語基盤

2023.10.12 - 14 SEA 教育ワークショップ 2023

テーマ「生成 AI による学校教育、企業内教育の変革

～ 急激な進展！今こそ出来る教育改革の実践事例研究・討論 ～」

2023.11.24 SEA Forum Hokkaido in Nov. 2023

北海道でリスクリングを話し合う

2024.01.19 SEA 新春教育フォーラム 2024

～生成 AI の最新動向と教育への活用について～

2024.03.28 SEA Forum in Mar. 2024

レガシーシステムの作り替えについて話し合う

分科会では、教育分科会がワークショップとフォーラムを開催した。

支部活動では、北海道支部がフォーラムを開催した。

国際交流に関しては前年度に引き続き、企画はありませんでした。

情報発信としては、WEB／メールと SEA MAIL を用いている。

メールについては、「SEA 事務局通信」として、SEA のイベントの案内、後援／協賛をしているイベントの案内を中心に、タイミングよく発信をした。

幹事会、支部活動、SIG 活動、ソフトウェア・シンポジウム、フォーラムなどにおいて、リモートで参加できる環境を提供するために、Zoom (Charge Name: Standard Pro Annual, Quantity:1) と Dropbox (Professional) を継続で契約を更新し、活用した。

決 算 報 告 書

(第 38 期)

自 2023年 4月 1日
至 2024年 3月31日

ソフトウェア技術者協会

電話： - -

貸借対照表

2024年 3月31日 現在

ソフトウェア技術者協会

(単位： 円)

資産の部	
【流動資産】	
現金 及び 預金	6,780,201
流動資産合計	6,780,201
資産の部合計	6,780,201
負債の部	
負債の部合計	0
純資産の部	
【株主資本】	
利益剰余金	
その他利益剰余金	
繰越利益剰余金	6,780,201
その他利益剰余金合計	6,780,201
利益剰余金合計	6,780,201
株主資本合計	6,780,201
純資産の部合計	6,780,201
負債及び純資産合計	6,780,201

損 益 計 算 書

自 2023年 4月 1日
至 2024年 3月31日

ソフトウェア技術者協会

(単位： 円)

【売上高】

売 上 高	784,000	
売 上 高 合 計		784,000
売 上 総 利 益 金 額		784,000

【販売費及び一般管理費】

販売費及び一般管理費合計		639,824
営 業 利 益 金 額		144,176

【営業外収益】

雑 収 入	55	
営 業 外 収 益 合 計		55
経 常 利 益 金 額		144,231
税 引 前 当 期 純 利 益 金 額		144,231
当 期 純 利 益 金 額		144,231

販売費及び一般管理費内訳書

自 2023年 4月 1日
至 2024年 3月31日

ソフトウェア技術者協会

(単位： 円)

接 待 交 際 費	11,825
会 議 費	183,636
通 信 費	215,378
寄 付 金	100,000
雑 費	28,985
支 部 支 援 費	100,000

販売費及び一般管理費合計

639,824

監査報告書

私たちは、ソフトウェア技術者協会の2023年4月1日から2024年3月31日までの会計年度における会計業務の監査を行いました。

監査の方法については、帳簿ならびに関連書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて計算書類の正確さを検討致しました。

その結果、貸借対照表、損益計算書、販売費及び一般管理費内訳書は、会計帳簿の記載金額に基づいて作成され、協会の収支状況及び財政状態を正しく示しており、適法かつ正確であることを認めました。

2024年 6月 20日

ソフトウェア技術者協会

会計監事

乗松 聡
中森 博晃

第三号議案 2024 年度事業計画

実務を各幹事で分担する運営体制を維持し、より積極的に会の活動を行っていく。また、会員相互のコミュニケーションを促進する。

1. 会員数

現正会員数：143 人（昨年度 146 人）

新規会員（昨年度）：19 人（昨年度 8 人）

名誉会員：9 人

2023 年はソフトウェア・メンテナンス研究会から移籍された方が 10 名いましたので、昨年度と比較すると新規会員数が多くなっています。

2. 活動計画

(1) フォーラム

- ・方針：フォーラムの企画と運営を組織的な取り組みとする。
- ・内容：個別テーマと連続テーマの 2 つに分ける。連続テーマについては、数年かけてフォローする。
- ・狙い：良質な議論の場としての認知を広げる。SEA としての知識の蓄積。
- ・方法：内容、講演者からのリクエスト、社会情勢などから、集合、オンライン、ハイブリッドの中から適切な方法を選択する。
- ・連続テーマ案：
データサイエンス、AI（強化学習）、DX、ブロックチェーン／分散データベース、セキュリティ、信頼性／安全性、プロジェクト・マネジメント
- ・今年度の連続テーマの計画（継続）：
 - 「レガシーシステムの作り替えについて話し合う」連続フォーラム

(2) 特別フォーラム

SEA のコミュニティ以外のより幅広い方々へ SEA の存在と活動内容を知ってもらうという目的で、特別フォーラムを開催する。年度毎の開催頻度や開催方法については、幹事会で検討する。

(3) ソフトウェア・シンポジウム

ソフトウェア技術に関わるさまざまな人びと、技術者、研究者、教育者、学生などが一堂に集い、発表や議論を通じて互いの経験や成果を共有することを目的に、毎年全国各地で開催。発表は論文発表・事例報告・Future Presentation、議論の場として

はワーキンググループを用意している。

(4) 支部活動，分科会活動の強化

現在，以下の9つの支部と分科会が設置されている，活動している支部／分科会もあるが，休眠状態の支部／分科会もある．これらについては活動継続の確認を進める．

支部活動：

上海支部

九州支部

北海道支部

北陸支部

名古屋支部

広島支部

東北支部

横浜支部

関西支部

分科会活動：

教育分科会 (SIGEDU)

ソフトウェアプロセス分科会 (SPIN)

フォーマルメソッド分科会 (SIGFM)

ソフトウェア品質保証分科会 (SIGSQA)

ソフトウェア信頼性研究会 (FORCE)

システムオブシステムズ分科会 (SIGSoS)

プロセス設計分科会 (SIGPD)

ソフトウェア・メンテナンス研究会 (SERC)

オープンソース分科会

分科会の発足と終了についてのお知らせ

ソフトウェア・メンテナンス研究会 (SERC) が発足されました。

環境分科会 (SIGENV) が終了されました。

支部活動，分科会活動は，国内外のソフトウェア技術者の交流の場として大切なものなので，この2つの活動を積極的に支援する．具体的には，イベント開催の相談や活動費用の提供を行う。

また，新規に立上げを予定している支部活動，分科会活動があれば，積極的にサポートする．具体的には，ソフトウェア・シンポジウムのワーキング・グループやチュートリアルリーダーやメンバに，議論を継続する場として提供できる事を伝える．ま

た、興味深い活動をしている方々がいれば、SEA 会員になっていただいたうえで、支部活動や分科会活動で実践することを提案する。

さらに、支部活動、分科会活動の発信力を強化するために、独自の Web サイトを立ち上げることも支援する。現在、独自の Web サイトを持っている活動は以下のとおりである。

支部活動： 北海道支部，東北支部，関西支部

分科会活動：教育分科会 (SIGEDU)，ソフトウェア信頼性研究会 (FORCE)，

システムオブシステムズ分科会 (SIGSoS)

プロセス設計分科会 (SIGPD)

(5) 今年度のイベント計画

SEA Forum, 分科会活動を計画的に行う。

SEA Forum の企画・実行を各支部と連携し開催する。

SS2024 の最優秀プレゼンテーション賞、最優秀論文、優秀論文を SEA Forum で発表、意見交換をする企画します。

SS2024 WG の成果報告会，議論の場を企画します。

8 月 - SEA Forum “レガシーシステムの作り替えについて話し合う 2 (仮)”

- 第 26 回 SEA 教育事例研究会 2024

9 月 - SEA 会員懇親会@横浜

同時期に SEA Forum “SS2024 の最優秀プレゼンテーション賞、最優秀論文、優秀論文の再講演” を開催 (横浜支部主催)

- SS2025@岡山 実行委員会準備開始

10 月 - 第 37 回 SEA 教育ワークショップ

- SEA Forum “レガシーシステムの作り替えについて話し合う 3 (仮)” を開催

11 月 29 日 SEA Forum @ 北海道 (北海道支部主催)

12 月 - ソフトウェア信頼性研究会第 17 回ワークショップ

- SS2024 WG の成果報告会，議論の場

1 月 - 第 33 回 SEA 新春教育フォーラム 2025

- SEA Forum @ 東北 (東北支部主催)

航空保安大学@仙台を会場に”ソフトウェアシステムについて話し合う” の企画提案の実施

2 月 - SS2025 のロケハン+SEA Forum@岡山 (広島支部主催)

3月 - SEA Forum@九州 or 名古屋 or 関西 or 北陸

4月 -SS2025@岡山 PC 委員会

6月 -SS2025@岡山

(6) 国際会議の企画

今までの関係と実績のある韓国，中国，台湾，ミャンマー，ベトナムなどとの国際会議を中心に，企画の検討を開始する。

(7) SEA MAIL の電子版の発刊

SEA フォーラム開催時に報告書作成担当を決め，SEA フォーラムの実施記録を SEA MAIL として発行できるようにする。また，幹事会で SEA MAIL への投稿を呼びかけ，持ち回りで担当することを検討する。

(8) 幹事会

基本的には，毎月1回開催する予定で開催スケジュールをたてる。

3. 審議事項

今回は特になし

第五号議案 役員改選

役員（案）

代表幹事

本多慶匡

幹事（五十音順）

荒木啓二郎	石川雅彦	伊藤昌夫	小笠原秀人
岡本圭史	小川明彦	落水浩一郎	岸田孝一
熊谷 章	栗田太郎	小林 修	小松久美子
酒匂 寛	杉田義明	鈴木裕信	富松篤典
中谷多哉子	中山優紀	奈良隆正	野村行憲
端山 毅	平尾一浩	三輪 東	宮田一平

米島博司

会計監事

中森博晃 乗松 聡

名誉会員

荒木啓二郎	岸田孝一	熊谷章	玉井哲雄
松原友夫	山崎利治	落水浩一郎	杉田義明
奈良隆正			

以上